

宮大生の詩が『現代若者 方言詩集』（大修館書店）に掲載されました。

この詩集は、北は北海道から南は沖縄まで、全国の大学生が、故郷の言葉で書いた詩を集めたものです。宮崎大学教育文化学部からも、古賀純「三回」（佐賀県出身）、高濱寿枝「こそあど」（熊本県出身）、飯田みゆき「霧島おろし」、甲斐裕之「てげ」、小田さおり「遠くまで行きてえな」（宮崎県出身）の五編が採用されました。昨年、教育文化学部の菅邦男教授が、「初等国語教育研究」の時間に、受講生全員に書かせ、その中から選んで投稿しておいたものです。

ぬきもぬきい

ぬきいだけじゃ足りない

ぬきもぬきい

本当に暑そう

（「霧島おろし 後略）

「読んでみると、日本語の表現の豊かさ、方言のあたたかさに気づかされる。そして若者の言語感覚の豊かさに」（菅教授談話）。

